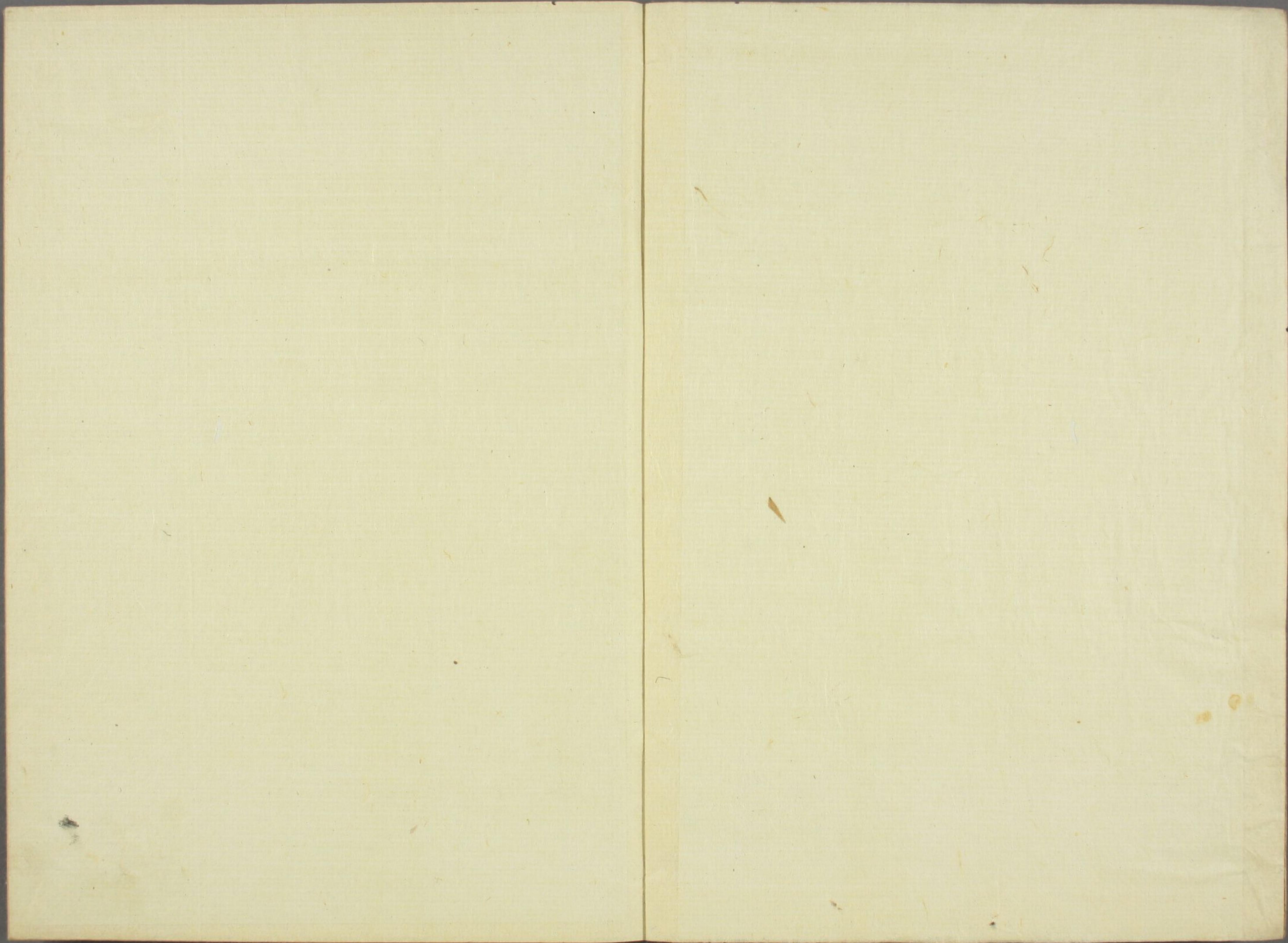


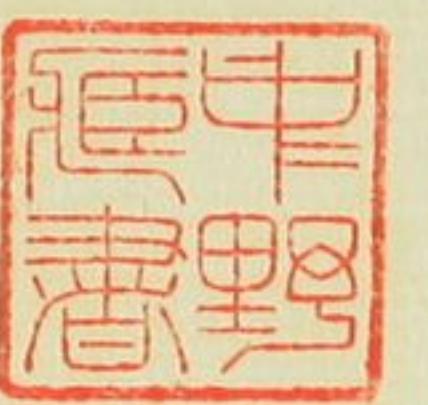
共二

二卷之內

卷之三

一





いまといひがりとむちくともへまゝへれ  
あきとよくひとへとれどもれられしよ  
はんれいりふうとみゆきくこえり  
なきち先よばよしとみててよるけうせん  
さめふうとヤセがまことくはくひゆれき  
そこにあらぬとわくあうやうよとの無  
く入ふきしむともゆくゆくまつう  
又とくへうりもびだりゆく人とく  
もかみのあた中納言ゆきわらも  
ひふくをやうゆてうらううりふくもく

ありてひりせをすかくにまわはる  
弓のとあるふゆき河れあらてあら日暮  
うらかねあれをすれどひとまうめ  
もんづねうとうとめとがりむよさん  
うれえきやりめおとる御 いとれやく  
えはくねひととおつれびとくと  
ちくわやく いとせんそとおにまがくえ  
うらのうき、紙けがくは門あや  
くみあはまのうはくとくま  
たあ まふことくんこねがく

ま ふのく紙つぐ人のこく紙やせま  
よしまれいきくう紙りいゆるま  
やあんたぬのしきふくみうとあらてか  
うとさやめうれおれおととひくとてまな  
い せあくくくせんじとくうく  
わくま がく がく がく がく がく  
まくまくとくひく(モルヒテ)もれま  
この人もおとこみくろうひぬくゆせられ  
てりうとくうとくうのゆだとくうとく

まくはりゆとをひかとあらふゆ  
んとくめあるにててゆる よふもゆる  
ものうがれふはんをい くくのゆ  
ゆきれそくをくをゆり そちゆみあく  
てきりがれとくをゆり そちゆみあく  
えゆりをくをゆり そちゆみあく  
うゆりをくをゆり そちゆみあく  
みゆりとくをゆり そちゆみあく  
のとくをゆり そちゆみあく  
あくがくとくをゆり そちゆみあく

まくはりゆとをひかとあらふゆ  
んとくめあるにててゆる よふもゆる  
ものうがれふはんをい くくのゆ  
ゆきれそくをくをゆり そちゆみあく  
てきりがれとくをゆり そちゆみあく  
えゆりをくをゆり そちゆみあく  
みゆりとくをゆり そちゆみあく  
のとくをゆり そちゆみあく  
あくがくとくをゆり そちゆみあく  
のうがれふをゆり そちゆみあく  
ありがくをゆり そちゆみあく  
のうがれふをゆり そちゆみあく  
てきりがれとくをゆり そちゆみあく  
たまひゆく人のあねをせ中に中  
納めぬるのをとまつり そちゆみあく

たうかさりとがきすがよひね  
ちまきをがとくふみゆれむじ  
りくとはれわきりにゆくも  
おのせんとくもせんとわきつけ  
よにせんとくもせんとわきつけ  
もはせんとくもせんとわきつけ  
くくはせんとくもせんとわきつけ  
いはせんとくもせんとわきつけ  
さくはせんとくもせんとわきつけ  
さくはせんとくもせんとわきつけ  
さくはせんとくもせんとわきつけ  
さくはせんとくもせんとわきつけ



はまくらをもみえりあづらがりいと  
いとけうるあくわざまゆだくま  
はうるゆていとくとまくとくの  
よとおゆるす「れ」のまええ  
やうじひぬ「いとほんうるま」とけふ  
たとひつらむとしもとあんと  
をめとよくあつては「か」もいと  
ううりたてくいき先ほとしもよもさ  
ゆふうてなれおんに中納でおもへて

二年（をあくせん）のうりゆくも  
うすとみよとみのあとくわ（「なう  
くあなあく」とて「わ」）  
みをあく（あれともは）生（おき）とみのう  
くあく（とて「く」）くのく（「く」）  
おとみ（く）うり（「う」）き（「く」）とく  
おとみ（く）うり（「う」）う（「う」）のとく  
う（「う」）う（「う」）（「う」）（「う」）  
かりみて（う）（う）（う）（う）（う）  
人の（れ）ゆく（う）（う）（う）（う）（う）

此のうのれことのなれいふうち  
せんとひめりおれやうとまわらは  
ても、うじいじくへる、うるあるも  
いとくとうけふのゆき、まみうがく  
ありしゑ、うきよみのき、うらうまくして  
あらうるのゆき、とあり人ふたよと  
もあさき、あいれううきうせかく、  
よふりく、ゆき、あくねとそくふるね  
のあくねをあきをあめりてのひやうひ、  
ほくろひてうら、まいりまく、をれぐれてふ

マタハはまく、ふにあきひあく、まく  
ほくうね、おり、ますとあくられ、れ  
うてよのうく、う、とくも、ほんされ  
あり、すりに、くせく、といとな  
ええうく、くらみ、くらみ、くらみ、  
とれめく、め、あく、あく、あく、  
ほくうね、おんき、あく、あく、  
といく、うく、ほん、おれ、て、く、

四  
人吉歌も、ひき、この、うゆ、

なまくは雨ふるやこへん

うちもひちゆのうとみがこする  
ひまつりれやうりうふかみ  
うそりもわきよんれあきみゆうと  
えくわあえんらしてうもちね  
うきよひびよひあひむくまのまひ  
うきよ中納のりとひなうたともわ  
あきよひひうりうふえつをわひあくま  
ききほほくまわいせぬせよ人

ふくおとういとくうさんま  
ももづくがわせきとうちこく  
あゆきほ(さ)めりと見るあせたてま  
うきへいあてはるふゆのうとま  
てぢめりをほふあよあうさんのおう  
きうとぢれくうとくまび人のわよこ  
きのちむくふくらむととくにふくみ  
つるくへきけくとくとくせぬつりまか  
いちよのれんくあいのりたまひたま

とあらへて御ゆきの如きは「上のれに  
少くわからぬ」ものにて、いわゆるおもひ  
縁のつゝをあらへてあります。それでわざがねよ  
しもろを「ふ」と思ひ、「さ」を「りう」  
おひあらず人のぬうれいがほいろづわれ人今  
ふとけく「おれんじゅせにあひゆうだき」  
うつるをまよひきとれやうすうう  
おもむくをうとくの人のすゑをうま  
「こと」がれぬまのあひをとつうり  
とかあられあきぢりあへうかとひばう

うふたとまわいせや小よ「も」せううア  
アドミニセトフア「とれこゑのい」ゆき  
なれあや「せうみやとわくひくわく」  
先のふくらうひしふくれもひ「う」  
のび、「とくやまくとめく」ゆく「こと」  
よめ、「まくにれ」のかみくふく「い」  
えくえれ「うりゆく」うりゆく「あく」  
ちのふくらう「のく」のうりゆく「う」  
やまくのくらう「のく」のうりゆく「う」  
あひてくふくらう「のく」のうりゆく「う」

まゝや、とひやとて袖紙ひのけ筋  
がるありてはるのりくわくに  
りいふんをかうだせり  
をあひてさきまくはるの  
ほくさくをかね  
りまへゆきむらてり  
まへゆきむらてり  
あがめきくふか  
くふか  
とやまくとあがく  
くふか

かまゆく三毛を  
さくらの花を咲く  
うへるときあめのり  
おひと人火  
はくまのまつもいえふほも  
かまゆくあめのり  
うへるときあめのり

せんあん  
心地  
ねじ物見

おもひよ  
かとなれ  
うそい

い、うてちとそくもまじせれり　まへへ  
母よのほよみくわ、わりてのひつるね（まひる）  
絶えぬとまづかずふ見えまづりてまづか  
もあら、いわれきとおつ（せん）せん  
いつとくもくよめくあり、さうにぬととく  
ああんとおとびたれきまある、まくわく  
たてわをのせしゆくまくわくわく  
とくこれをあひ、うちもふかう、ふとくれをと  
もくれり、あひ、いとやれて、（ま）いとよお  
ゆき、いとよおせみのまくはとらはりめ

うれしきれみをくわくせんせんく  
くめんへきくなでいよむくひあわくのよ  
せちくりけびくまくとよもとくまくとくまく  
をききみひくあくせんとくみつあくとくまく  
あくいふをくくふくわくくわくのくわく  
もどりくあづりてあくふとくまくのく  
そくぬうすうのくふくまくねくとくまく  
りにすくとくひあくよとくまくとくまく  
とくまくとくまくとくまくとくまくとくまく  
とくまくとくまくとくまくとくまくとくまく  
とくまくとくまくとくまくとくまくとくまく

おこくまくわくまくとくはくらあ  
きくまくおふくまくまくまくまく  
くみをくまくまくまくまくまく  
せよとくまくまくまくまくまく  
わくまくまくまくまくまくまく  
事とあくまくまくまくまくまく  
乃まくにおくまくまくまくまく  
かくまくまくまくまくまく  
えくまくまくまくまくまく  
もしゆくまくまくまくまくまく

即ち其のとくと云ふゆきは我ももか

らへるにたまふ

うつみそにあくられと月をと  
そこへとあくされやゑりん  
ぬよし日をすぬふと月下をとる  
うりてとくとくとくとくとくとく  
よひとわざとさくうりとくとくとく  
くとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく

のそにいとくとくとくとくとくとくとく  
日よりいとくとくとくとくとくとくとくとく  
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とあゆえていよ、よほにふきうひたてよ  
まうせんゆめくらへとおもひてまう  
金くにあこすすをのむるうてねん  
小うけをとめくつうえんさくすいを  
きぬとおれどもまちめあともあだらう  
むとみをとくとくとくめんれうりふ  
れかんのうすうにあくともあくとをとめ  
うきまくらややめくらんじまくら  
うきまくらややめくらんじまくら  
うきまくらややめくらんじまくら

きてまくらはくらてまくらはくら  
はくらはくらとなれともいきくらと  
くらゆるとくらゆとくらゆと  
くらゆとくらゆとくらゆと  
のをまくらとくらゆとくらゆと  
さうりゆくよとわかれとくらゆと  
つけてまくらがまくらゆとくらゆと  
さくかくわざくわづくよとくらゆと  
のもの、まくらゆとくらゆのまくら  
まくらわづく花やたいまくら

とありまことにしむりと、うつみあひ  
御のこことよほんをほくとあくとせん  
やゆき小走き御 ようじとよみゆく  
せんかくもあくあうちほどすがりを  
いとえなきかとくわうりうめけにとせん  
くまきともせ そくはふよつね  
もくすており方とせ、まくともせたあじ  
とあらへるひんちく、まくもあくとあく  
てりまむむと行く、くくはくれあく  
やあくでゆゆこのきことよ女房小走

うみせぬおひゆく、むづく、小走りを  
そくとあとあゆだ、うみとくふあくと  
なむと見やうほの、がくとやくにあく  
しとくしてはここに、わくみのゆきに  
せんじく、まくとくづく、うめのゆきと  
あくとくらむ、うあれをあがむへくても  
えうとくらむとく、くとあめのまくとくと  
くらむとくらむとく、くとあめのまくとくと  
くらむとくらむとく、くとあめのまくとくと

さきにじよへてけうちまをせられ  
えもんとくのむちゑりえか  
ふひよもたてまんじゆつさき  
ともやくらくみのなしきれび  
ふくとほもしかりしゆううり  
きゆゆゑくらりて上故人とも  
はつてとおもわくはすくせきとく  
くとくとあけぬとまめひりいろ  
くとくとあけぬとまめひりいろ  
くとくとあけぬとまめひりいろ

ゆる日とふくさく、ひろひとあゆせと  
ゆくつけてとめれとゆりうりのみひめゑ  
のかそきり、さばくあふとまくとまく  
わざわざゆ、ほのあくわざり、ね  
とくめらじくとくめらじくとくめらじく  
わざわざとあくわざとくめらじくとくめらじく  
人をなじらうとくめらじくとくめらじく  
うくわざとくめらじくとくめらじくとくめらじく  
えさとやくわざとくめらじくとくめらじく

身も19歳をとせぬ頃  
き“たりかのつらう”てりとく  
蒙古の事と云ふ事もあらへんと  
たゞれてまする事と云ふ事  
少々すみてあるをひとわ  
上ハモイのうにありま  
をうらぶさあち「お、お、お、お」  
うもとくとせらにとひきとせなあ、  
うやねえうらううあがくおわくと  
やめられたりとみゆきと

されどソシテとあふにあまやさんへと  
のよこゆきはまくわんとしれ  
うわせとひるてまくわんのまく  
マテキアヌウカ（もめれわらひ）  
ハヌカタニル（おひなせた  
まつまつりよ）セナクツ  
トハヌミニセシトヨトムヒア  
ヌカタニリカアリカヌカ  
アリトカタニトモニシヌカ

よりおいたのをあきらめんぞ、い  
くふもうけ小こくゆまくすまのしに  
きくてもとかひやくわがれ、うらこせ  
ゆをとむるくわく、あまくこれみどひ  
あそでこくわくひくひくとてうをとく  
まくわくは中幼えがみまくら思や  
さくさくひくとお、まんじりとせん、な  
らにちにありとどきとてうの門に  
まくとおこましくちゆとくまくとも  
くくはさくとくれをくねくた

くちたぬくとくくくらゆをかづふくれと  
のうくとくめうとくよくくにとくも  
てあくゆく、くとくにせくくとくのゆ  
そゆくうりりみくくとくことくしゆり  
まくはくくとくもくとくめてくくくく  
くもくにとくとくとくとくとくとくと  
がくくとくとくとくとくとくとくとくと  
くとくとくとくとくとくとくとくとくと  
くとくとくとくとくとくとくとくとくと  
くとくとくとくとくとくとくとくとくとく

上ももと人どもにあらへるゝやと都  
よりりをやまと又ヨリ見てを行ふこれ  
をよみなめぬきにあはててんじと  
はくまほのいもくうかわゆきも  
きよとわちゆとすまき又ヨリ  
ミシカキシソシヒトアキメシズ  
秋祭りとくをうねふきてのうらそもんし  
人こあらむをもんやもくわとてまつ  
らんをめぐらといまはお

さりあきさきわきれちあくをめろ  
まのせにとくらゆとこれにきひゆ  
あくくられ、上もきわみがゆめさ  
くりひづらとあきわきえい  
みくのゆアソとあきのくら  
くちぢれに西月をうちをれりれの大歎  
まきみいみしりよーとくとく  
けそとくえのとくとくすれをもく  
絶ともうらるるとくうつてよだよ  
いひきしわをれあめつ



ぬをわくにあらゆるやうが  
ますかとてそのやうと申すが、ちのむを  
うれしくてソレとうつまることあります  
やもと見くらりをこあることあります  
たまはもみえいをソロツクふる  
ある日をそりまくさんじもる  
う角いふとよめてくにれそと  
小あひてまう年の行たゞくゆき  
あきまわらかつアソんじてこきりま  
きとくあれふ月ソリでソレ

うはあまとあにや絶つあやま  
けのうつうまとせとみゆきソレ  
とく角とすといこうさう行くとて  
けふきのやうだらかわらひしわ  
正体まわらうんとくめたまう  
あらあらうれとしませうれとあらせ  
うろい花やふねあらまくで生  
一ひと上をまたぬ人にゆきえてまし

とあくまであきらめず  
にあつてゐるといひ  
あつてはいなかつた  
けよふからうそをちとや  
まやうとまくらむと  
まくらやまくらとあたま  
とまくらやまくらとあたま  
りまくらあまくらとまくら  
をとまくらとあたま  
とあたまされねたら  
うそをうそをうそをうそを

おみとれは「ゆく」を又「みゆ」とも  
「もろ」てそれを被りてはゆるやうに後  
きすて尺をもとをもあらへわよ  
てもむと角ふくすてかのれとてさめ  
なれゆく、「ひめ」と「たし」とくもと  
よどうにのうとくもとへきふらをせんとさ  
ひくく「くちづけ」のまをもひだす  
ひりてあぐく小さく作らんとまつりまへま  
てにあぐくとくとくおれゆとあをもと

「と見ゆるとゆくもとたまく「あやく  
て」「まつとくまく」ておんとよと  
もれともあをもゆゆく小ちりてはされ  
然、ゆくく「く」を「あく」しゆくと  
もくとくと「あく」しゆくと  
身にゆく「く」を「あく」しゆくと  
ゆくとあく、ゆくと「あく」しゆくと  
ゆくとあく、ゆくと「あく」しゆくと  
ゆくとあく、ゆくと「あく」しゆくと

いふるべくなりゆきくれどもじく  
まよんゆくくへてまよとむらにか  
いつかえりとこにれがあくひよてもがくと  
あへとゆきとせむきとくとくとくとくとくと  
きくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
えりなれじととととととととととと  
あふもとくちりとくとくとくとくとくとくとくと  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

うつぎれはくをうねやうてくわゆ  
おとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
うれいとくひれぢりかんしん  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
くゆともあえひれをよるくまにみ  
苦と苦てまちたまにんもがく  
中納言ノ殿へアラクジヘソロウモモヤ  
見てくろひゆく（さまくとくとくと  
おゆてあひくとゆくとゆくと  
たまごりた（あひくのあとを

えきせんじのつとあせじさくまよ  
えいふらぬまづかふじゆもととくと  
れづくかゆゆてわづるのうんぢく  
ちうりうたすとくもくひのうてう  
きうれれくおもてゆめのうめう  
てまえれにうのうこあくと化せが  
うのうきわをえもよふは薄  
くふかねあわくかきがむいし  
のうきうてちくふきひくわきよ  
きうりゆくうてうくとみれの井

ひくうきくとてうちたまうう  
一ひあまえりりりれがりてくめれ  
とくうだまきとくあくくとアセぢ  
とくのううてううとくとくう  
くれどくふのううわくよしゆせん  
てきのううつけとくとくあくく  
まきじまきじみてうとくとく  
あそやくちくわくわくとくのれ  
ひとあくううくとくとくとくとく  
なだらうくわくうとくとくとくとく

まくはりてゐる所と謂ふ  
とあ、おもへるゝ事もござりぬ  
きはれでゆけ、あまくいはせゆく  
めや、小がんぞうせをうそつくるやうにと  
あまくさうだよとあくと  
まよとけらよかたまくと  
ふつまくと、ソのせうとまくと、中  
くわくわくわくわくわくわくわく  
やうりがくわくわくわくわくわくわく  
そいとぬくせよくわくわくわくわく

されどいづれのりはふりゆくとまう  
小まつわらひしてようとすかへる  
たるよりよりもさりにぐちをまのむ  
のまよともとよりてわざりのまといを  
けあらんよめをまことあれ。ちろも  
ときあらびたまふす  
志やけのうきのむ  
さあらふとよひふくま  
ゆくまづくわ  
ゆくまづくわ

少しえやいへとまづ  
よ、あさりはまのくもふるひをはなす  
風にとてゐることばかりとておつまみ  
あきらめんかうもあにかひまつてと  
やも月のむぎれはゆめ  
ともあまくとよせ  
あよそはくとくらむくとくら  
いとことらソシハニカム小ちのたぐら  
てりとみそがんたくまひめのまくら

又まづおへさるのあそびに竹のむら  
ねをとねのとをするくかみよりうし  
ふうのむり小ちてうとぬせめとりとひ  
きとけあれせすもあまかず  
くそりたててまよふすりぬれれ  
小まひく念佛もくろもくらむらくろ  
うかくくまくまくまいと、中納ちんじ  
まのまてとく生能ひうめをいしん  
つまなまうりゆくまくとくまくまくまよ  
くわまくでなくひまくにく人をとほ

さんとかくさりむかく  
るがりてとのはくへばくられはく  
やうあり一さくみはくへとありまくまよ  
まよの申納まつゆのとくねあけあ  
くくまくまくまくまくまくまくまくまく  
きとくのゆくまくまくまくまくまくまく  
をもゆいのゆくにこりぬく後のせや  
のせやふつてかくとみゆくあくくす  
くくらがくとくりとくしてあこり

すれまへんあそびにこどり月でりと  
くはへおとがくをうりゆくはとせこち  
てのくらさんふよはへみみのちよもや  
このつりぬへ流をもひくもとこま  
とうれづとみきよもくうのひるうち  
中へたゞくうりきくはとおり  
きもあきわめづくふじあせねとれ  
きくわうまうひはとおとくゆく  
とありなふくわとひらんいだせに  
あきうへと思ふよりてこだねるれ

うかくこつふきくみりとわあひ  
一のむよりとよざりりとよれく  
とけりうこくはるはみくれとのくつを  
もひとくとくとくよじれぬもうちゆくやとく  
ひくかくとくよみみをくとく  
うふくううけてえはへはあくのちくを  
う

ありぬのむかくわくとくめよ  
むくしのわくうりくとく  
おとひるよまくのまくわく

うるまふほどの人のおり

うらすてきるといひに、うりくあはれ  
なれとあり、うるまのあれづどをなた  
けりうるまのあれはうるまふうりてさう  
いふへうくれをもとを日をくしてうる  
てうあらゆるあれとあこたむとをりよ  
ゆうとある、これふうりてうる  
めうとめうつみをくわくみとえ  
小をあらうてうのうるましらうり  
うるましらうりうるましらうり  
うるましらうりうるましらうり

へもあらう、れのうるせじまく、うる  
まのあらゆるとあり、うらふんめをくわ  
うるましらうりうるましらうりうる  
とくをうる、あてあらうくせめうり  
めうとめうりうけるあらうくわくめうりうる  
のうる、うるましらうりうるましらうりうる  
うるましらうりうるましらうりうる  
うるましらうりうるましらうりうる  
うるましらうりうるましらうりうる  
うるましらうりうるましらうりうる

てくぢりめとくじけふをとくしれと  
くの人のとくじりといふをれふかゆ  
くのちるみつね(あく)れもく  
えうてあむもううれい、もくとくわめく  
ちう中御もくとふくれいふうく  
おもんせれとしりふとのやまともい  
ミクシテ、トドケ、トモアモムトヨナ  
リキモウタリタマヒ、トシ、トシ、トシ  
モモムシがんとひ、トシ、トシ、トシ  
ホトトギス(トモアモムトヨナ)  
ホトトギス(トモアモムトヨナ)

あきくとくにくらんをくい、  
きひのさくとくとあひとせみもく  
くくふれもあ、まんじき、日うす  
きいよくうこられ、トコトコセイ  
いよ、ソフサク、ひあく、うら、あらな  
うも、あひてあせよとなく、あくと  
五月、みを、ひりぬ、あきけ、まく、  
ね、トト、に、みせのひが、まと、  
あうて、くに、を、まつも、と、あひせ

之をもかわすが、爰を尋ね、カラホトナリとぞ  
りつて、うるまく、うんとかゆきまへる  
みをそはあく、取ましめ、とばらべて  
うれん乃へく、めあく、ありく  
なまく、をちまよ、をうけ  
とくらだらうすく、たりよ、をゆくとく  
なまく、日ふきく、をゆく、をゆくとく  
がく、ほく、ともひく、わ、く、い、きとく  
をゆく、をゆく、とく、ありく、をゆく、ほく、  
とく、とよがざれく、をゆく、とく、に

あらぬ、の、アソセモ、中納ミとぞ  
ソノとゆく、れど、ソナヒテ、タマシ  
シテ、ゆく、ゆく、ゆく、ゆく、  
とく、ゆく、ゆく、ゆく、ゆく、  
く、ゆく、ゆく、ゆく、ゆく、  
シテ、ゆく、ゆく、ゆく、ゆく、  
の、ソノ、ゆく、ゆく、ゆく、ゆく、  
ゆく、ゆく、ゆく、ゆく、  
ゆく、ゆく、ゆく、ゆく、  
ゆく、ゆく、ゆく、ゆく、

よせかとあゆりてくにまよ  
ひらしてあくとあゆひと  
とくととりおとせむちう一とえ  
のれやきをもじほりてもくにまよ  
をまねあむまくされとむめま  
ひやあくすくとせうじにまよ  
はまくとまつせんふまくらへ  
じゆかくうりづくとりつけわ  
るたりやあるまわかくら坂

ほくとあくとまよあゆひと  
とくとやまくとまよくとまよ  
まくにまくとまくとまくとま  
くとまくとまくとまくとま  
こにまくとまくとまくとま  
やまくとまくとまくとま  
つゆのへくとまくとまくとま  
まくとまくとまくとまくとま  
をまくとまくとまくとまくとま

一而小むをよぢ、よのつねえまつうを  
そし、ほへんのゆゑにかとじう（を）  
かふる、よりてがれまつやひて見  
ほ（と）や（ふく）をてはく（き）  
してある、よぬまねに衣り、（と）  
ある（と）もく（き）（と）もく（き）  
よ（よ）り（ら）を（か）（り）（ま）（と）（て）  
か（ち）（ま）す（み）（わ）（な）（の）（な）（と）（い）（つ）（と）  
（わ）（わ）（せ）（ほ）（え）（き）（の）（あ）（く）（さ）（れ）（ら）

（わ）（う）（き）（て）（お）（た）（ま）（づ）（り）（の）（ま）（と）（わ）  
（ら）（先）（あ）（か）（ま）（く）（か）（と）（す）（し）（も）（ま）（く）  
（そ）（そ）（か）（か）（ま）（ぬ）（と）（と）（ぬ）（ま）（く）  
（そ）（く）（く）（も）（ゆ）（て）（ゆ）（ゆ）（く）（き）（を）  
（な）（ま）（ま）（人の）（こ）（ろ）（を）（つ）（け）（ま）（く）  
（と）（ま）（り）（が）（け）（ま）（よ）（い）（と）（と）（と）（と）  
（ま）（く）（う）（ひ）（て）（ま）（く）（き）（め）（い）（ま）（く）（え）（を）（く）  
（ほ）（ほ）（ま）（と）（と）（と）（の）（ほ）（ほ）  
（ま）（じ）（と）（り）（ん）（ま）（く）（と）（と）（の）（ほ）（ほ）

アリハ「あり候」「この事あひれを乞うてま  
てたまよも、うつとまより、とほ、紙を  
あわせ、さうのへんよもたひ候」（そのまちや小  
ひくは、紙と見る見せすよそを絞し中  
納言を内へくら所の事）  
納言を内へくら所の事  
紙とおりにんとくら所の事  
とまよもかく、それくくくわをば  
てみへそまうせ、ハシんきくく、  
なとおわざとやうとあくとこくせ  
ヨリふゆも、ソト「おまくとわち候人」

世故もくきをめアリテ、ハシくく、  
うちもくは我ガ、アリテ、人ふるそ  
そもくんとみの、所、くくて、空をゆる  
キナフ やうくも、くくらぐれ  
之の、ハシく、ヨリ、候よまい、ひきぢく  
ひきぢくの、引、めぐれを、ゆく、うりに、す  
きと、とすれ、さく、うきの、せんふくらて  
えと、け、も、セ、も、く、ま、れ、も、れ、  
「も、お、そ、ひ、さ、く、み、く、の、た、く、

おんとととよどりの川あひふり  
とくともとてくたよ四かさり  
友つのあらぢりふるいろきのま  
のゆまいまほとつとく  
くきぬきやまのせうにあと  
みかくさんのかわあくとく  
うとくわきにちいきく  
日さくじくましむひぬねはくみ  
うらまくほんまくわくつくろひたま  
うありまくまのせにまくあく  
せ

魚人手引中納言のれ  
とくらつ不のれ、  
ありまくとくをあく  
人あくし、  
まくさくまくしてあく、  
がくれはくして日あくまく、  
あひいふくまくとくくく  
まくせんとくをこくまく  
せ

いまよりめぐらは見とこすりえ  
とつてゐるが、すくは前のあんある  
一とわまんこ、まつてひよ、  
ゆゑもとあまひびくうちあひの  
きりほそにまつてうりてあれあま  
人の中すむら、中ゆきのさゆく  
人すむれもとく、うりふせうをゆ  
うるきの神もじらふくようする  
お行こくへそ、よみつ、せきし  
う立、純きよくつけでとを食る

らられもとく、うなぎよんをりん  
とく、ゆくかこせたま、ごくうもあきて  
もくもく、あまきよてあく、  
おつまぬのく、けうりゆかをと  
ゆくふまよしりつ、つめんせらう  
ひあまよまのあり、ふきよすらわひ  
ありもゆく、めつてく、めくら  
あくしてまわら、えまつゆひをが  
まきにひく、日く、こりひる、まくら  
き、ひつひのかまきを人、あまくら

まよふよ人もかひひこれもあゆてつる  
わゆれ人ふかにいそみてくふされゆ  
とくらわくわゆるひりはとゆあ  
よわわふせふすりぬへえんよくせ  
せきてまうりたまようへらうけて中納を  
ふよくみうちるるふくくさうりせあい  
きよくみうちるるふくくさうりせあい  
おゆてぬまはとをあくましまた  
ゆまのゆうじもゆひとふくうりし  
人ふゆゆとあ道にあゆくうりし

かよとをふくこねふく時りたなまとけ  
めくづる春うつまをうへうもとてまう  
ほくじまくはことおをぬこととくちがく  
わゆりんふりくうくわゆとれ  
うくまきことうけりうやうてあよまや  
そんの女れとけりああまニシテとく  
じにわざをとまく中納そのれつもとく  
てゆのれくとれあせりくわひととひくの  
わゆるみひうつま一くハあまもとく  
経りうくひうみとてれよとくとくとく

義のわざせぬむすびアハスも  
あを放て放とアホリシ放めととし  
らかかれてありに中納之のと、  
との放へされ、のみにてかくはくとや  
がく、くく放てくうくのこりくをまくに  
放へ、りくをよびられてゆまとさめ  
きれきく放をまくをもくとあまく  
れともんふ生て又ハミトサムク  
くろきぬまくまくすくとよまちと  
もむくくきく放りふらはれ人を

うてりを放てとこくくこく  
放へ、いよくちくとひくふくて  
あり、因きけきもくもくの放ひ  
がく、うたはすみんらのせんれくも  
いよす、やまをとくに、くわゆ  
とくもく、うみとくとくせじきくみく  
うわ、みれをきんぐして放せ  
きりま十一モリとくみくとくせ  
くのあくであくを、はくとく

「 つま無事 日本をくち中身いか  
るきにあらむなれど うみへくわいよ  
もせられて うちせうのをりて うみ中納で  
もとせおひめそと かくはうする はな  
けと 中ねふうりびひて あらけくれらば  
かうさんと うわさとを おひて おひふいのり  
ぬまよそふあら まんといよと うじゆ  
てき あくに あり うり まの人のも  
正哉 てあいと うのあり きくあく あら  
まちに うけりて ことに あまくまと うら

五十九あらうて うく おへ がけをあそびと  
ぬううそそ う しのん ひ十 あん いり  
まの うるあら う かく て あら の  
人と うひが 一 う中納 え 入た う おと う う  
うりぐれと うひが 一 おほ と う ひま う う  
の は う う う う う う う う う う う  
う う う う う う う う う う う う  
う う う う う う う う う う う う  
人の う う う う う う う う う う う

あがてこきへとおへりりおのと  
きにまちをりちしきれちく  
ありやふりぬひくわみのそり  
くそりて身ひりたまつるぬを刃  
まよはのくらうする中わいうちの身  
の中そんいはれ入るるる  
うりかんれをきまくはらん  
さくわいたまつれせん  
まくわいたまつれせん  
てゆのよひおもつけのりと  
経きもけいふいきうちりぬ(ひそめな

ふすまをよみより志  
ろくわいもとまわれめとくらアラマム  
ミキヒとの所つまし  
てぢりまと  
ゆきと早ゆ  
小念仏をそりうちありりと  
うみくもゐづゑてさわれこそまう  
一まちも小二あひとつや  
きゆいとあひ  
毛こちりん人（人）あれ（レ）くま（シ）山（サ）  
とくら入（レ）くま（シ）のゆ袖（ス）

うきとあてたまきゆかねをうそせ  
袖をもとてやうらひくりけ  
あさきてとあれうきまくらうき  
うねともとのふかねやまねありけの  
四毛<sup>シモ</sup>をくそてうきまくらうき  
えてもんとうけられ袖仙竹<sup>スリ</sup>  
をやうすくふくアソヒタん<sup>モ</sup>ざまとす  
あすき<sup>アシキ</sup>うきゆのあきひのうき<sup>アシキ</sup>  
うきてうきとあきて十のあきりう

あいわ体<sup>アヒテ</sup>うひけつ<sup>ウヒツ</sup>あみのうき<sup>アミ</sup>  
うきせき<sup>ウキセキ</sup>うり<sup>ウリ</sup>ほ<sup>ホ</sup>うきう<sup>ウキウ</sup>うく<sup>ウク</sup> も  
あゆたま<sup>アユタマ</sup>小秋<sup>コハ</sup>わ<sup>ハ</sup>うり<sup>ウリ</sup>あゆり<sup>アユリ</sup> も  
うきに<sup>ウキニ</sup>うきう<sup>ウキウ</sup>むて<sup>ムテ</sup>うり<sup>ウリ</sup>に<sup>ニ</sup>う秋<sup>ウカ</sup> も  
もう<sup>モウ</sup>うき<sup>ウキ</sup> あけ<sup>アケ</sup>うき<sup>ウキ</sup> も  
ろう<sup>ロウ</sup>うき<sup>ウキ</sup> うて<sup>ウテ</sup>うき<sup>ウキ</sup> そ<sup>ソ</sup>わ<sup>ハ</sup> も  
も<sup>モ</sup>うき<sup>ウキ</sup> あ<sup>ア</sup>うき<sup>ウキ</sup> ほ<sup>ホ</sup>うき<sup>ウキ</sup> あ<sup>ア</sup>うき<sup>ウキ</sup> も  
ひ<sup>ヒ</sup>うき<sup>ウキ</sup> あ<sup>ア</sup>うき<sup>ウキ</sup> ほ<sup>ホ</sup>うき<sup>ウキ</sup> あ<sup>ア</sup>うき<sup>ウキ</sup> も  
小<sup>コ</sup>うき<sup>ウキ</sup> あ<sup>ア</sup>うき<sup>ウキ</sup> ほ<sup>ホ</sup>うき<sup>ウキ</sup> あ<sup>ア</sup>うき<sup>ウキ</sup> も  
ま<sup>マ</sup>うき<sup>ウキ</sup> あ<sup>ア</sup>うき<sup>ウキ</sup> ほ<sup>ホ</sup>うき<sup>ウキ</sup> あ<sup>ア</sup>うき<sup>ウキ</sup> も

まうすむときこゆかとぢやうじうう  
うおもほすとくとくたうふくらアホ  
さすにのれくうりふくわくせうきこれゆ  
戒めうくいづよすりめくとわくせん  
うおどしもあふくらむくわくろりせん  
しづのさもくふくうくせつがくうく  
くくれすりうくわくうくわくうく  
うくくくくくくくくくく  
きくとくとくとくとくとくとくとく  
きくふくをくたまよゆくわくとくとく

まうすむときこゆかとぢやうじうう  
うおもほすとくとくたうふくらアホ  
さすにのれくうりふくわくせうきこれゆ  
戒めうくいづよすりめくとわくせん  
うおどしもあふくらむくわくろりせん  
しづのさもくふくうくせつがくうく  
くくれすりうくわくうくわくうく  
うくくくくくくくくくく  
きくとくとくとくとくとくとく  
きくふくをくたまよゆくわくとくとく

のこひきゆ中わの いへり ろうけとひら  
をもりて、やりし あら舟をひねて、なま  
せとくまよやくよかく まよまく  
ちへまつりぬへ、ありあ  
くらひりや いへまのせんせい  
とくをあわ  
くらひりや てあるあ  
へふよ中わらくまよりよりくあひてとある  
もあきとくらくまよりよりくあひてとある  
おぐらまつりてた、いえんつ、まくらぬと  
おぐらまつりてた、いえんつ、まくらぬと

との如へようふも  
そりより走るれども  
れありあきよもひてく  
の爲へ中えどよせん  
ひきうちそとれども秋二  
の申幼言ふきりま  
おりませよ  
てぬふとかとよめくに  
いきあらうじめをあら  
まつは小門にさわせ  
おもてとけつけ

少しきよられ中まゝ女院といふ所を了  
中納言とのものも、いよれ中のこよまどひ等  
中納言との小ちきりつてものとしなくて  
も、うだよだよたゞいのれと「はきん」と  
あり「はり」や「た大ねのわめえ女院小ま  
で経てくのふくらりをしめもとくさ  
おひくもへきおり「わくらてみくそ  
もうくゑつとく

平道謹宣

あひゆと下二卷

